

# 中学部 「かんかくあそびをしよう」の授業の取り組みについて

執筆者 吉田 亜未

## 1. はじめに

自立活動の学習では個々の教育的ニーズに応じて目標を設定し、それぞれの課題に取り組んでいる。生徒Aは、前年度は高熱、虫垂炎での入院（手術）のため欠席が多かった。登校時は覚醒状態が低く、意思の表出（笑顔を見せたり、声を出したりすることなど）が少なかった。術後は体調も落ち着き、欠席もほとんどなく、元気に登校することができている。まわりの友だちや教員の声に耳を傾け、自分が好きな関わりには笑顔を見せることも増えてきた。そのことから、本生徒の好きな感覚あそびを見つけ、それを通して、外界への気づきから興味の幅を広げていくなかで、人と関わることの楽しさを本生徒が感じ、自分の意思を積極的に表出することを目標とし、今回の授業研究の内容に取り組むこととなった。

## 2. 授業事例

(1) 日時・場所 平成29年10月24日（火） 第5校時 13:15～13:50  
中学部2階 2年1組教室

(2) 学部・学年 中学部2年1組（自立活動を主とする課程、女子2名）

(3) 題材名 かんかくあそびをしよう 1部 おおきなかぶ（きく・ゆれる・さわる）  
2部 さわってみよう（さわる）

(4) 題材設定の理由

### ○生徒観

#### 障がいについて

本生徒は、アテトーゼ型の脳性麻痺による重度の肢体不自由と、知的障がい及び視覚障がい（未熟児網膜症による全盲）を合わせ有しており、移動や食事、日常生活全般にわたって支援を必要とする。胃ろうによる経管栄養シリンジ注入で、さらに経口から10口程度摂食している。

#### 健康の保持

体温調整が苦手で、身体に熱がこもりやすい。暑いと泣いて訴えることがある。昨年度は原因不明の高熱が続き、欠席も多く、1年を通して不安定な健康状態であったが、虫垂炎によるものとわかり、平成29年2月に手術を行った。覚醒と睡眠のリズムが安定せず、登校時は覚醒が低く、声をかけても反応がない日が多かった。昨年度の後半に、睡眠時に無呼吸状態があるということが発覚し、自宅で夜間睡眠時にバイパップの使用を開始（平成29年3月～）。以前よりは少し改善されたが、現在も日中の覚醒状態は不安定である。

#### 心理的な安定

不安や不快な時は泣いて訴える。気持ちが高ぶった時などは、全身の動きが激しくなり、自分で落ち着くことが難しい。

#### 環境の把握

全盲で光覚無し。そのため、視覚での認知は不可である。「トイレについたよ」と言葉がけで笑顔に

なったり、「お茶を飲む」「食べる」などの言葉に反応して不随意運動がはじまったりすることなどから、聴覚や触覚を用いてある程度の事柄を理解している様子が見られる。  
揺れや揺さぶりが好きで、笑顔を見せることがある。

### 人間関係の形成

友だちや教員の会話に動きを止め、耳をすませて聞いている様子が見られる。大人に抱きかかえられると、緊張がゆるみ、不随意運動が止まりやすい。

### 身体の動き

筋緊張の変動のために、一定の姿勢の保持や運動範囲のコントロールが困難である。緊張が強い時は、反り返りが見られ、上肢下肢が伸展しやすい。緊張がゆるむと、覚醒が下がり、頭部の位置の保持が難しくなることもある。  
側わん防止のためにプレーリーくんを使用している。仰臥位姿勢になると左足が内側に内転するため、外転装具を装着している。

### コミュニケーション

受け身のことが多く、自分から声や身体などで要求することは少ないが、本人が声（喃語）を出している時に、相槌を打ったり、話しかけたりすると、嬉しそうな表情を見せる時がある。

#### ○題材観

自立活動の学習では、個々の教育的ニーズに応じて目標を設定し、それぞれの課題に取り組んでいる。本生徒の年間目標は、個別の支援計画に次のように記されている。

- ・側わんや体の変形防止のため、日常的にあぐら座位や立位、うつ伏せなどの様々な姿勢をとる。
- ・SRCウォーカーでの歩行訓練に取り組む。
- ・声や表情などで自分の気持ちを伝える。
- ・いろいろな素材のものを触って感触を確かめながら、「握る」「離す」ができるようになる。

本題材は生徒の覚醒を維持し、注意力を持続させるため、2部構成で取り組んでいる。まず1部では、本生徒にとって馴染みがあり、一定のフレーズが繰り返される物語（大きなかぶ）の体験型読み聞かせを行う。「大きなかぶ」は、ストーリーがシンプルで理解しやすく、同じパターンのことばの繰り返しがあり、聴覚的にインパクトがあるなど、五感に働きかける要素のある絵本である。読み聞かせの中では、1学期に生徒とともに取り組んできた「好きな遊びを見つけよう」の活動の中から、本人の笑顔がよく出ていた感覚遊びに取り組み、物語の中で、教員からの働きかけを受け止めて期待することを現段階の目標としている。また、いろいろな感触が味わえる大きなかぶの具体物や、実際にカブを引いている体験ができるようにリールを使用することで、触覚からの認知も高めることが期待される。

2部の「さわる」の活動では、「握る」「離す」等の動作を学習する前段階として、手で色々な刺激を感じることで手への意識を高め、動きと感触や音との繋がりに気づくこと。また、それらの経験を積み重ねて外界への興味・関心の幅が広がることを目標としている。本時に使用するテーブル琴、輪ゴム琴は、指先への注意、意識化と音との因果関係理解がはかれる教材である。覚醒状態が不安定であるため、覚醒が下がっているときは、本生徒の状態を確認しつつ臨機応変に提示物や姿勢を変更していく。

## ○指導観

本題材の指導にあたっては次の点に留意する

- ・感覚を活用するため、周囲の雑音が少ない環境を整える。(静かすぎると覚醒が下がってしまうことが多いため音刺激を併用する)
- ・感覚刺激においては、時間的關係が理解できるように、決められた時間の中で複数回行う。
- ・本生徒にとって「急な働きかけ」にならないように、一つひとつの動作に時間をかける。
- ・一定の授業の流れ、決まった言葉がけや合図を行うことや、活動で使う具体物を一緒に触ったり、音を鳴らしたりして確認することで、生徒が見通しをもって安心して学習に取り組めるようにする。
- ・本生徒の覚醒状態は不安定であるため、その日の状態を見て、臨機応変に提示物を変更する。

## (5) 題材の目標

### ①感覚あそび(きく・ゆれる・さわる)

- ・要求表出 III-15: 好きな遊びをした後、もう一度して欲しそうな表情をする。  
「支援者を意識し、話し声に身体の動きを止める等して注意を向ける」

### ②触ってみよう(さわる)

- ・認知(触覚等) II-13: 対象物を触ることで認知し、手や指を動かして確かめることができる。  
「能動的な動き、目的をもった動きを向上させる」

## (6) 指導計画 [全16時間]

第1次(4時間)

第2次(6時間) 本時 3/6

第3次(6時間)

次	目標	時間数
第1次	支援者からの体性感覚への働きを快として受容する。(好きな遊びを見つける) 触って楽しむ絵本を読む。(手に触れている物の感触の変化に気づく)	4時間
第2次	支援者からの体性感覚への働きかけを快として受容し、安定した注意反応を示す。 対象物に触れると手指を動かす。	6時間
第3次	支援者からの体性感覚への働きかけを快として受容し、繰り返す際に期待反応を示す。 触覚を手がかりとする探索行動を生起する。	6時間
合計		16時間

(7) 本時の目標

生徒	実態	目標	手立て
A	<p>① 緊張の変動があり、筋緊張が強いときは反り返り、下肢伸展が見られる。</p> <p>② 働きかけに対して受け身のことが多く、自分から声や身体で要求することは少ない。また、働きかけへの注意が持続しにくく、安定した注意反応が見られない。(覚醒レベルが不安定で、日中も時間に関係なく眠ってしまうことが多い)。</p> <p>③ 不随意運動が多く、安定した姿勢の保持や手のコントロールが難しい。(身体を動かしながら続けているときは、外界に注意を向けることができない)</p>	<p>① 教員に抱きかかえられると身体のをゆるめる。</p> <p>② 教員からの働きかけに、身体を止める、表情を変化させるなどの注意反応を示す。</p> <p>③ 対象物へ注意を向け、手指を動かして触ろうとする。</p>	<p>① 姿勢保持。</p> <p>② 決まった言葉がけ、時間的手がかり刺激+中心的働きかけ(期待イベント)、活動は短時間で繰り返し取り組む。</p> <p>③ 姿勢保持、提示物の工夫、音刺激の併用。</p>
チェックリストによる生徒の課題	<p>① 優しく抱きかかえると心地よさそうになる。(緊張がゆるむ)</p> <p>② 好きな遊びをした後、もう一度してほしそうな表情をする。</p> <p>③ 手に物が触れると手や指を動かす。</p>	<p>① 支援者に抱きかかえられると表情や身体のを緊張を緩ませる。(要I-3)</p> <p>② 好きな遊びをした後、身体のを止める、表情を変化させるなどして、もう一度したいという気持ちを支援者に伝える。(要III-15)</p> <p>③ 手に注意を向け、手を開いて対象物に触れようとする。(認触角等II-13)</p>	<p>① 支援者と子どもの身体のを接触面積をできるだけ広くし、子どもが安心して身体のを預け、落ち着くことができるようにする。</p> <p>② 前庭感覚や固有感覚への刺激。働きかけの始まりと終わりを意識できるようにする。</p> <p>③ 対象物に触る前に手全体を握り、自分の手に注意が向けられるようにする。</p>

(8) 準備物

大きなカブの具体物、タブレット端末、スピーカー、テーブル琴、箱イス

(9) 指導過程

学習活動	指導上の留意点 (□課題○支援・配慮☆評価)
<p>授業のはじまり、今日の内容を言葉で伝える。 (5分)</p>	<p><b>覚醒して授業に参加する。</b> ○言葉かけ、タッピングを行い、覚醒を促す。 <b>授業のはじまりを意識する。</b> (不随意運動により、身体の動きが止めらなかつたりするときは、マットに降ろし、圧迫刺激で身体の動きを抑制する。また、耳元で少し大きめの声で生徒の名前を呼んだり、数字をカウントしたりして、外界に意識を向けやすくする) ☆教員の挨拶の言葉に身体を止め、注意を向けることができているか。 ☆覚醒して授業に参加することができるか。</p>
<p>[物語の導入] 車椅子から降りて活動に向けての準備をする。 (5分)</p>	<p><b>活動のはじまりを意識する・活動に向けての姿勢づくりをする。</b> <b>身体の動きを止め、物語のはじまりに注意を向ける。</b> ○活動のはじまりの合図として「おおきなカブ」のBGMを鳴らす。 ○教員と密着して気持ちを落ち着け、徐々に落ち着く体勢づくりをする。(横抱き姿勢は本生徒が一番落ち着ける体勢ではあるが、覚醒が下がってきてしまう場合があるので、覚醒状態に応じて姿勢を変換する。) ☆姿勢を整えると緊張を適度にゆるめ、音楽や教員の声に注意を向けることができているか。</p>
<p>1部 [おおきなカブの体験型読み聞かせ] (10分)</p>	<p><b>好きな遊びをした後、もう一度してほしいような表情をする</b> <b>快の働きかけを受容し、声や表情などで、自分の気持ちを伝える</b> ○おおきなカブの具体物を触り対象物へのイメージを膨らませやすくする。 ○読み聞かせには抑揚をつけた声で物語を録音した音を使い、「うんとこしょ」の掛け声の部分は違う人物の声を使用し、3回繰り返す。声の変化に気付かせ、興味を持続させやすくする。 ○本生徒の覚醒状態に応じて感覚刺激の方法を変えていく。 ① リールを使い、カブを引っ張っている感覚を味わいながら、「うんとこしょ、どっこいしょ」の掛け声に合わせて前後に揺れ、前庭感覚への刺激をあたえる。 ② 「うんとこしょ、どっこいしょ」掛け声に合わせて身体を細かく揺さぶる。 ③ 生徒の身体を抱きかかえ、「うんとこしょ、どっこいしょ」の掛け声に合わせて空中で回転する、上下に揺らす。 ※覚醒状態が良好で不随意運動が強く出ている場合は①の感覚刺激を行う。覚醒が下がってくる時は、生徒の様子を観察しながら②、③の活動に変更する。☆教員からの働きかけに注意を向けることができているか。 ☆快の働きかけを受容し、表情を変化させる等して気持ちを伝えられたか。</p>

<p>姿勢変換 (5分)</p>	<p><u>次の活動に向けて、姿勢を変換する</u></p> <p>○覚醒が下がっている場合や、落ち着いている時は、装具を履いて①箱イス座位をする。</p> <p>○身体の動きが止められず、箱イスでの座位姿勢が難しい場合は、マットに降りて生徒の様子を観察しながら、徐々に②仰向け姿勢、横抱き姿勢をとる。</p> <p>☆①両足をしっかりと地面につけて座位姿勢をとることができているか。</p> <p>☆②身体の動きを止め、外界に意識を向け、活動への準備ができたか。</p>
<p>2部 [さわってみよう] (7分)</p>	<p><u>テーブル琴に触れると手指を動かして糸の感触を確かめようとする</u></p> <p><u>緊張を緩め、手指を動かしてテーブル琴に触れることができる</u></p> <p>○対象物に触る前に手の平全体を包み込むように握り、手への意識を高める。</p> <p>○耳元で琴の音を聞かせ、触る前に対象物を確認することで、安心して取り組めるようにする。</p> <p>○不随意運動が強くてできた場合は、手首を支持し、対象物から手が離れないように支援する。</p> <p>○落ち着いて触れることができている場合は、肘を支持し、できるだけ少ない支援で自由に触ることができるようにする。</p> <p>☆琴の音を聞いて活動内容を確認することができたか。</p> <p>☆不随意運動に大きく左右されずに対象物に触れることができたか。</p> <p>☆手指を動かして琴に触れ、感触や音を確かめることができたか。</p>
<p>まとめ [振り返り] (3分)</p>	<p>○授業の終わりを伝える。</p> <p>○頑張ったことを伝えて、褒める。</p>

(10) 評価の観点

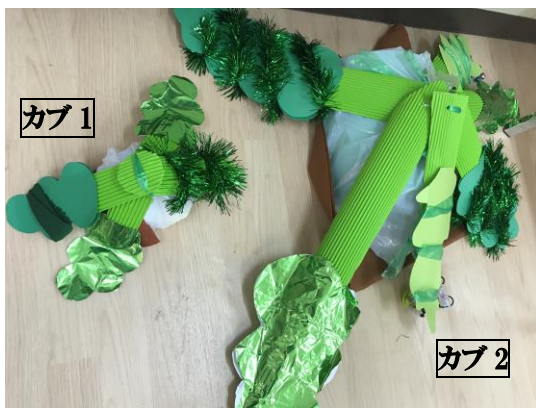
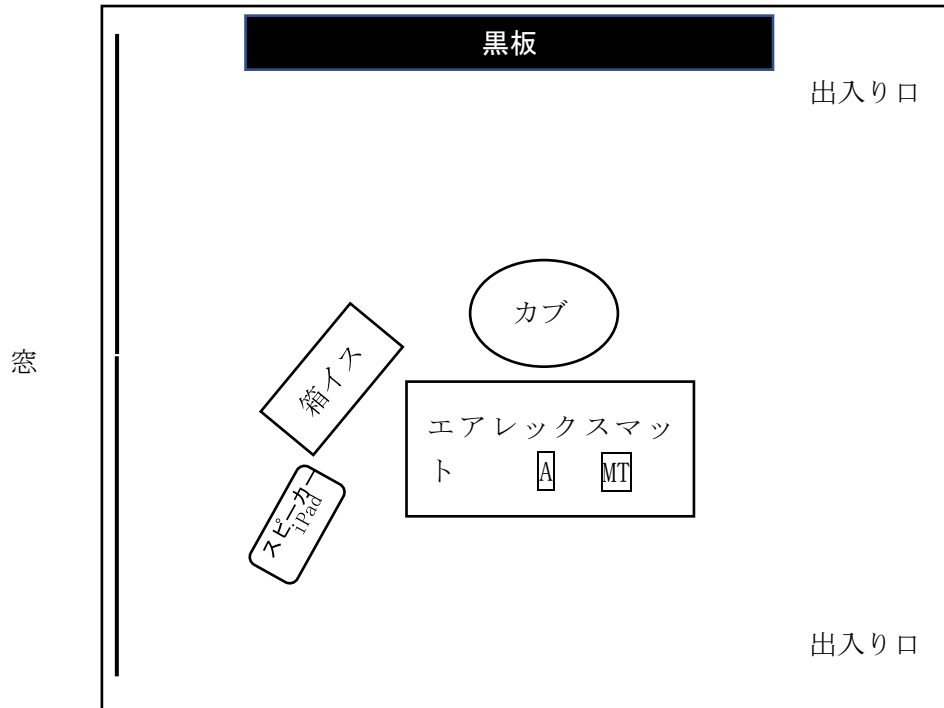
個別の目標

- ・覚醒して授業に参加することができたか。
- ・音楽や支援者の声に動きを止める等して注意を向けることができていたか。
- ・提示された教材に、聴覚・触覚などの感覚を使って気づくことができたか。
- ・手を動かして対象物に触ろうとしたか。
- ・学習内容の分量は適切であったか。

(11) 年間指導計画

目標 (個別の指導計画から)	題材名	時間数
<p>・声や表情などで自分の気持ちを伝える。</p>	好きな遊びを見つけよう	18時間
<p>・いろいろな素材のものを触って感触を確かめながら、「握る」「離す」ができるようになる。</p>	感覚遊びをしよう	16時間
	自分の気持ちを声や表情で伝えよう。	21時間
合 計		55時間

(12) 教室配置図



←株の具体物

授業研究前の2週間は訓練入院で学校に来れなかったため、**カブ1**を作り、病院で普段から触ってもらうようにしていた。

本時は、サイズを大きくした**カブ2**を使って授業を行う。カブが大きくなったことを体感し、興味・関心が高まることをねらいとしている。

### 3 考察

#### (1) 担当者による授業後の検討会

福山特別支援学校の川口先生からは次のように助言をいただいた。

- ・小学校からの高熱や虫垂炎での手術など、本人にとって辛い体験が長く続いたことによってとじこめ症候群のような状態になってしまっていた可能性もある。外界との接触意欲を引き出していくには時間がかかるかもしれないが、成功体験をどう作って行くかが重要である。本人の様子から、音の聞き分けができていられると思われる。「引けたね」「押せたね」「握れたね」など、1つ1つに言葉がけをしていくと良いのではないかな。
- ・空間認知ができていないと探索活動には繋がらない。探索行動の生起には大変時間を要する。指導計画に書かれている16時間では難しいだろう。じっくり取り組んで行く必要がある。
- ・不随意運動をなるべく出さないように取り組んでいたが不随意運動は出ても良いのではないかな。
- ・「さわってみよう」の活動では、支援者が琴を持って取り組んでいたため、位置が不安定で、毎回違ってしまう。目が見えない生徒は特に、対象物の場所を固定したほうが良い。視覚障がいがあるため、対象物の位置が固定されていないと探索活動には繋がらない。また、姿勢については、箱イスでは上肢を動かすことにハードルがあがるため、別の姿勢（側臥位が一番手指を操作しやすい）で取り組んでみてはどうか。

#### (2) 学部内での授業検討会

- ・「さわろう」の活動では、本人の指の動きなどから意志を感じとれていたと思うので、随時フィードバックの声かけを多くしてはどうか。
- ・具体物を使ってみてはどうか（引っ張ったら実際に何かが近づいてくるなど）
- ・カブが抜けた後の具体的な物（実際にカブが抜けるなど）があったらよかった。
- ・2部構成になっているので本時の見通しが持てるような言葉がけがはじめにあっても良いかも。

#### (3) 授業検討会をうけての授業改善

- ・生徒の主体的な取り組みを増やす。
- ・丁寧にひとつひとつに言葉がけをする。（成功体験を積む活動を増やす）。
- ・「さわろう」など、上肢を動かす活動では、側臥位の姿勢で取り組んでみる。
- ・具体物を使う。（実際にカブを引く体験を取り入れる）。

授業検討会での先生方の助言を受け、上記の4点を改善し、授業づくりに取り組んだ。また、覚醒が低い日が増えてきたため、授業のはじめに足浴・手指浴を行い、しっかりと身体を温め、同時に手のマッサージをして手への意識を高められるような活動を取り入れた。

#### (4) 授業改善後

授業改善後の授業研究では、福山特別支援学校の川口先生からは次のように助言をいただいた。

- ・次のステップとしては、因果関係の理解を狙っていけるように思う。カブを引くという活動では、因果関係理解の評価がしづらい。視覚に障がいがあるため、提示する教材は、自分で手を伸ばせば届く範囲にザラザラ・つるつる・ネバネバなど、感触の違うものを貼り付けるなど、平面上での指導をしていくと良いのではないかな。
- ・足浴・手指浴については、お湯の温度が少し低かった（38度に設定していた）。42度ぐらいに設定すると良い。

今後の課題としては、見通しを持てるわかりやすい授業展開を心掛けること、その上で本生徒の興味・関心が持ち続けられるような授業づくりに取り組んでいきたいと考えている。